

ごあいさつ



TSIE 会長
福田 泰造

TSIE（常滑市内児童生徒国際交流推進協議会）、創立 25 周年を迎えるにあたりご挨拶を申し上げます。ISSE（小学生の国際交流の世界組織）のプログラムを使った TSIE の国際交流は保護者ボランティアによる日本では他に例を見ない常滑市独自の小学生のための国際交流事業として現在まで引き継がれてきました。そして、ISSE 本部、常滑市教育委員会、歴代 TSIE 役員及び事務局員の適切なお助言や市内各小学校の先生方、国際交流事業委員会、そして何より地域の皆様方のご理解ご協力に支えられ現在の TSIE の姿を具現出来たことは、会員の皆様方と共にご同慶至極に存ずるところであります。

ここに 25 周年の節目を迎えるにあたり、これを記念して記念式典、祝賀会の開催と創立 25 周年記念誌の発行を致します。これらの事業は、TSIE 会員はもとより多くの地域の皆様のご参加によって支えられ成立致します。より多くの皆様方のご参加を期待申し上げます。

さて、TSIE で昨年までに派遣・受入した子ども達の総数は引率者を含めると 1,312 名に及びます。各年度の事業につきましては、通常総会にて、過年度の事業及び決算のご承認、そして当該年度の事業計画や予算案のご審議を得て事業を進めてまいりました。各小学校の派遣・受入事業や ISSE のカンファレンスへの参加そして関係団体への事業参加協力などあります。只、心配されるのは、昨年からは一部の大国が始めた自国第一の保護主義政策が他国へ広がっていることです。その影響により教育省の方針がこれまでと 180 度変更された国もあり TSIE の昨年の交流事業（特に夏休みを利用した派遣事業）は、スケジュール調整に追われその対策に苦慮してきたのも事実であります。こうした内外での諸情勢に鑑みると、TSIE 内における文化や民族の多様性は今後もっと加速すると思われれます。分かち合いの精神でお互いの立場を尊重し合い、世界の子ども達が国際空港（セントレア）のある常滑市で分け隔てなく一つにまとまり美しい地球がいつまでも続いて行くよう次の世代に繋げて行きたいと思えます。

終わりにあたり今後も TSIE にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。ごあいさつと致します。

TSIE 創立25周年を祝して



常滑市長
伊藤 辰矢

常滑市内児童生徒国際交流推進協議会（TSIE）創立 25 周年をお祝い申し上げます。長きに渡り、児童生徒の国際交流事業に理解と協力をいただき継続できたことは、大変有り難いことだと感謝いたしております。

常滑は中部の空の玄関口でもある中部国際空港セントレアとともに、発展を続けております。本年の9月には、セントレアにLCC専用の第2ターミナルが、その前月には国際展示場がオープンし、ますます活気に溢れ、国際色豊かになっています。また、中国宜興市との友好都市提携も進められ、海外との交流促進が期待されます。

TSIE の活動によって、子ども達は活発な国際交流事業を通して大きく貢献し、地域づくりから街づくりへ、そして国づくりにまで発展させ、常滑から世界に羽ばたき活躍する国際人の育成へとつながっています。

今後も TSIE の貴重な活動が、益々盛んになり、発展することを祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。



常滑市教育委員会
教育長
加藤 宣和

TSIE 創立 25 周年を迎えられ、心よりお祝い申し上げます。TSIE の活動を継続することができたのは、福田会長を始め役員の方々、各学校の実行委員や先生方の多大なるご尽力のおかげでございます。

昨年は日本でラグビーワールドカップが開催されました。日本チームの活躍を見て、日本人であることに誇りを持った人、各国の勇ましいプレイを観戦し、元気や勇気をももらった人も多いことでしょう。また、国際社会の中で、日本人として胸を張って生きていくことや、他国を尊重する気持ちを持った人もいたのではないのでしょうか。

常滑市では、受入・派遣を合わせますと 1300 人近い児童生徒が交流しています。常滑の将来を担う子どもたちは、他国の文化・習慣を体験する事で、広い視野を培う素晴らしい機会となり、大きく成長し、ひいては郷土常滑の繁栄に寄与するものと思っています。

TSIE の活動が、何十年と続くことを願って、お祝いのあいさつとさせていただきます。



常滑市議会議長
加藤 久豊

常滑市内児童生徒国際交流推進協議会 TSIE の創立 25 周年おめでとうございます。この派遣事業にあたり、TSIE 関係者、そして各学校の実行委員会の皆さんのご尽力に心より感謝申し上げます。

他国の子どもたちとの交流を通し成長していく過程は、子供たちにとってかけがえのない財産であると思いますし、中部国際空港セントレアを市域にもつ、常滑市にとっても国際感覚豊かな子供たちの経験は、今後のまちづくりに活かされていくことと思います。

また、受け入れ事業においても、他国の子供との交流は、子供たちの国際感覚を効果的に引き出し、まさに地球市民としての自覚を促されることと思います。

世界との距離は近くなった昨今、これから日本は益々国際化が進んでいくことでしょう。その時代に活躍される人財は、まさに TSIE の経験者なのかもしれません。

常滑市議会としても、貴会の意義を十分理解し、支援を進めて参ります。貴会のこれからの発展を心よりご祈念いたします。



常滑国際交流協会
会長
鯉江 正廣

TSIE 25 周年おめでとうございます。

これまでの長い活動のうちには海外での伝染病の発生などで行き来が中止になったことや現地の危険情報で行き先の急な変更など国際情勢に翻弄されたことがいくつもありましたね。

そんな苦労の中でもその時々最善の方法を考え、無事に子供たちを家まで帰省させてきた、その大変な努力に心からの敬意を表します。

私は国際交流で 1 番基本になるのは、やはり個人と個人のつながりだと思っています。

もちろん現在の技術をもってすれば実際に会うことは無くてもそれは可能でしょうが、お互い顔見知りの関係ほど強いものではありません。

派遣で行くことの出来た児童はもちろんのこと、受入れでも他国の同じ世代の人と知り合いになれるということは今後の長い人生の中での大きな財産になるでしょう。

常滑の子は本当に得難い体験ができるのです。



常滑ライオンズクラブ
会長
権田 泰一

TSIE 創立 25 周年おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

30 年ほど前より常滑市内高校生国際交流事業が盛り上がり、当時の常滑北高校で多くの市内高校生を対象に、わくわく感と不安の中で、お世話をしたことが懐かしく思い出されます。

その5年後、国際交流の重要性は市内児童生徒に及び、今日の常滑市内児童生徒国際交流推進協議会 (TSIT) に成長しています。国、歴史、文化、人種を超えたこの事業は、子どもたちの将来のため、常滑を始め日本国のために大変意義あることと確信しています。

常滑ライオンズクラブとの関わりも古く、この素晴らしい事業に対し応援できますこと、大変嬉しく楽しみに見えています。

この事業に関し、お世話をして戴いています、福田会長を始め実行委員会の皆様、学校関係者の皆様に敬意を表するとともに、子どもたちのために、ご尽力くださいますようお願い申し上げます、お祝いの言葉といたします。



常滑ロータリークラブ
会長
森下 豊

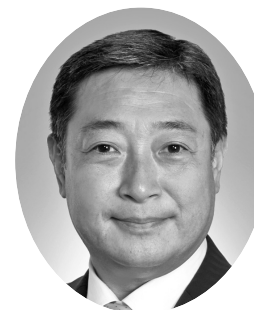
TSIE (常滑市内児童生徒国際交流推進協議会) 創立 25 周年、誠におめでとうございます。

小学生の頃に世界の子供たちと触れ合う実体験の機会を持つことは、これからの時代に必要な国際感覚を身に付ける事にとっても効果が高く、子供自身の将来の人生観に大きな影響を与えたいと思います。

他の市町の子供たちには、なかなか与えられない機会を民間ボランティアで継続して提供するには、様々な問題があったことと推察しますが、創立時の思いを継承して今日まで成果を残しながら 25 周年を迎えることに敬服致します。

この活動を通じて、より広い視野を持った人材が少しでも多く育つことを願うばかりです。

今後も TSIE の活動が継続発展することを記念し、お祝いの言葉とさせていただきます。



愛知県議会議員
杉江 繁樹

常滑市内児童生徒国際交流推進協議会 (TSIE) の皆様におかれましては、創立 25 周年を迎えられ、心からお祝いを申し上げます。

また、福田会長を始め役員の皆様と、各学校関係者の皆様は、日頃より常滑市内の国際交流事業を積極的に展開していただき、児童や生徒たちに国際感覚を醸成するためにご尽力をいただいています事を、心から感謝申し上げます。

愛知県は産業首都として、日本をけん引するため国際イノベーション都市を目指しています。常滑市は、その世界への玄関口である中部国際空港を有しています。この、TSIE での体験をきっかけに、将来世界で活躍する人材が育っていく事を希望しています。

そして常滑市は市制 65 周年の今年、初めて国際友好都市提携を中国宜興市と結びました。これは、市としての国際化元年と言っても良いと思います。

是非、常滑市の国際化が、益々飛躍していく事を望むと共に、TSIE の活動が更に発展していく事を祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。



International School to School Experience



ISSE 本部 ベブ・キャンプベル



ISSE 本部は、児童らに文化体験を提供している TSIE の 25 年にわたる業績をたたえることをとても光栄に思っています。私たちは、長年にわたりあなた方の戦略や計画を拝見しております。TSIE はこれらの努力によりとても成功しています。あなた方の教師の方々、事務局の皆様、そして学校のサポートなどこれらすべてが ISSE の組織にとりとても成功を取っています。私たちの子供らがより良い多文化共存の理解を得られるよう共に皆が協力し、ISSE や TSIE への興味やサポートが継続されることを期待しています。

マレーシアでの ISSE 国際会議に TSIE 派遣団が参加したものと最近の中国での会議のもの、2 枚写真を送ります。

TSIE25 周年おめでとうございます。そして次への 25 年を期待しています。



ISSE オーストラリア代表、
リージェンシーパーク小学校 ISSE
コーディネーター
ジョジーナ・イバノフ

常滑での TSIE と ISSE プログラムを通じ、常滑の多くの学校を訪問したり、ホストの計画をしたり、楽しい交流をしました。1998 年西浦南小学校との交流が初めてで、以来リージェンシーパーク小は計 6 回 7 校と交流しました。それぞれの交流は素晴らしいもので、関わった人々みんなにとり興味深く記憶に残るものでした。長く続いた交流プログラムに関わったリージェンシーパークの派遣団員やホストファミリーの多くは、連絡を取り続けています。

日本との 6 回の交流において、今までにお会いした方々は、みな親切で寛容そして思いやりがあり、一緒に仕事をするのが楽しみでした。学校職員やホストファミリーは、楽しい交流をするために喜んで受け入れてくれ、クラスレッスン、茶道、着付け、寺やお城への遠足、市長表敬訪問、焼き物散歩道を含む地方の名所訪問など多くの様々な体験を提供してくれました。

私は TSIE 委員、日本の家族、学校関係の方々と楽しく会議をし、共に尽力しました。多くの人々とお会いでき、知り合えたことをずっと楽しんできました。それら多くのひとを友人と呼べることをうれしく思います。そしてその方たちといまだに連絡をとっています。綿密に準備され、いつも素晴らしい文化的な交流を提供してくれ、私の学校リージェンシーパーク校や他のオーストラリアの学校の多くは、しっかり働く TSIE 委員の方や多くの素晴らしい学校と交流ができとても幸運です。

オーストラリアの私の学校へ派遣団が来たとき、彼らのカルチャーショーはすてきでした。言葉の違いにもかかわらず地域との関わりもすばらしかったです。学ぶ意欲の強さで意思疎通ができていたと思います。

私の素敵な体験を共有することをいつもうれしく思います。また TSIE 委員会や日本の交流プログラムを絶賛したいです。そして同僚や ISSE オーストラリア委員会の方、ISSE オーストラリア校の職員や校長も賞賛します。

あなた方の素晴らしい努力が継続しますように、そして TSIE の 25 周年記念おめでとうございます。



TSIE マレーシア支社
マネージャー
カマルディン ビン カムシャ

私は TSIE のメンバーとして 25 周年記念式典に参加できてとても嬉しいです。1997 年に最初のグループが日本-マレーシア交流を始めた時、今日のように TSIE が大成功を収めるとは思いもしませんでした。それ以降、翌年からも、日本の常滑とマレーシアのシャ・アラムの生徒たちが社会的、文化的財産を学び、共有し、交流し、大人になるまでの人生の旅を豊かにする場作りを、専任の TSIE スタッフが精力的に取り組んでいます。

毎年恒例のプログラムでは、生徒たちは開催国での 3 週間の短期滞在に限られていた。が、しかし TSIE のスタッフは参加している生徒たちに生涯影響を与えるかもしれない社会的、文化的活動をプログラムに詰め込むことを目指しました。その鍵となるのは、友情を深め、本国から離れて外の環境に対する理解と尊重をはぐくむための活動を強調することだった。日本とマレーシアとの間で社会的、文化的、環境的相違を考慮すると、TSIE スタッフにとって一つの挑戦でした。しかし、年々、子供達は、両親や教師、そしてそれぞれの国の真の大使であることを誇りにしています。彼ら (TSIE のスタッフ) はこのような若者に敬意、理解、寛容、影響力を示してきました。これらは入り組んだ複雑な世界で平和を築くための不可欠な要素だと思います。

私は 25 年間の全ての TSIE スタッフ、同窓生、校長先生や先生方、保護者、支援者の熱意と成功をととても誇りに思っています。あなたがたの経験、考え、教訓、感動を周りの全ての人に、特に若い世代に伝えていて下さい。多世代の参加と未来における平和な世界への共通の理想像のおかげで、TSIE はここまで成功しました。私達の素晴らしい子供達そしてその彼らの子供達はそのような世界に生きる価値があります。

TSIE ! 心から祝福します。お疲れ様でした。これからも世界中の子供達に希望を与え続けていってください。ご多幸をお祈りします。

ホストファミリーの喜怒哀楽

竹内 蒔滋 (2015年 鬼崎北小 タイ ホスト児童)

4年前、タイからパットが僕の家に来ました。タイの子達は、みんないつもニコニコしていたし、タイ語を聞いていると、とても優しい印象でした。

パットとは、学校の友達も交えてゲームをしたり、サッカーをしたりしました。

日本人の小学生はタイ語も英語も喋ることがほとんどできませんでしたが、ジェスチャーを使ったりして、不思議と、ことばの壁はありませんでした。国は違っても、同じ小学生を感じました。あれから4年経った今、お互い高校生になり、自分のスマホを持ち、インスタグラムで繋がることができています。パットの高校生活を見てみると、ほとんど僕の高校生活と変わらない感じで、友達とわいわいと楽しそうにしている、やっぱり同じ高校生なんだなあと感じています。タイとは、文化もことばも違うけれど、やっぱり同じ人間！

これからも、パットとの繋がりを大切に、お互いに違う場所で成長していきたいです。

そして、成長した姿でまた会いたいです。



土川 実穂 (2015 常滑東小・メキシコ ホスト児童)

私は4年生の時にホストファミリーとして、メキシコから来たケビアと2週間一緒に生活をしました。会う前はちゃんと話せるかななど少し緊張していた私たちでした。でも、空港での出迎えの時には、ケビアは私たちに駆け寄り笑顔でハグや話をしてくれ、これからケビアと過ごす2週間を思うと、とてもワクワクしたことを覚えています。私は英語を全く話せませんでしたが、ジェスチャーで思いを伝えたり、待ち時間に手遊びをしたりして、言葉が通じない中でも、ケビアとのやりとりは常に絶えませんでした。ケビアとは一緒に学校へ登下校したり、休日には一緒に色々な所へ出かけたり・・・本当にあっという間の2週間でした。ケビアが常滑を出発する日の朝。家族みんなお別れを寂しく思っている様子でしたが、「必ずまた会おうね。」と約束し、何十回目となる最後のハグをしました。

それから4年後、約束通りに私たちはケビアと再会することができました。ケビアとの交流を通じて多くの貴重な体験をすることができたこと、どれだけ離れていても友情に変わりはないということを感じられました。



天野うらら (2016 鬼崎南小 マレーシア ホスト児童)

私は、マレーシアから来たアリッサという女の子を受入れました。会うのをとても楽しみにしていたけれど、不安も少しありました。

アリッサは、とてもシャイで、最初はおとなしかったけれど、仲良くなっていくうちに一緒に笑いあったり、ふざけたりすることが多くなっていきました。ナガシマと一緒に絶叫マシンに乗ったことや家でトランプなどで遊んだことがとても心に残っています。

でも、やっぱりずっと一緒に過ごしていたアリッサが帰るときにはとても悲しくて今までにないくらい泣いてしまいました。

言語が違っても、仲良くしよう、と思うことで誰とでも友達になれるということを感じました。

次は私がアリッサに会いに行き、また笑い合ったりして、楽しい思い出をつくりたいです。

たくさんのいい経験と思い出をありがとうございました。



丸山納里子 (2016年 小鈴谷小 インド ホストマザー)

笑顔がチャームなマールと過ごした日々は今でも鮮明に思い出せます。

我が家に来た日、元気になっていたマールが寝る前に表情を曇らせ、ホームシックだと打ち明けてくれました。その日から滞在中、毎晩私のハンドマッサージを受けながら眠っていく姿を見て、本当の娘のような気持ちになりました。

日本とインドの文化の違いからお互いに受け入れ難い事も有りましたが、毎日娘や息子とカードゲームをしたり、声を上げて笑い合ったりしている姿を見ていると、子供たちにとって言葉の壁は思っていたよりも低く、簡単に超えられるのだと感じました。

あの日々から4年、今でもメッセージでやり取りをしています。マールを受け入れた事で私や子供たちの世界は広がりました。この貴重な経験をさせていただいたTSIEの皆様深く感謝すると共に、この事業が末永く続く事を心より願っています。



横井 日夏 (2017 三和小 オーストラリア ホスト児童)

私は二年前にオーストラリアの子を受け入れました。マディーは、とても明るい性格で、一緒にいていつも楽しかったです。私の思い出によく残っているのは、ビーチランドのイルカショーでいっぱい水がかかったことです。他には、学校の授業でオーストラリアンフットボールをしたときに、ナイスと言ってくれ嬉しかったことなど数えきれないです。

私は家で一緒になってふざけたこと、初めて名前を呼んでくれたこと、初日からホームシックで泣いてしまったこと、でもお別れのときは、さみしくて泣いてくれたことなどマディーと過ごしたときのことはすべてが新鮮で、今でもよく思い出します。いつも隣にいたマディーが急にいなくなったのはとても悲しかったけど、クリスマスカードを送ってくれたり、たまに電話をしてくれたりもし、昨年の四月には、家族で会いに来てくれました。そしてマディーは、私が次の年に派遣に行きたいと思ったきっかけにもなりました。



岡田 和恵 (2018 常滑西小 マレーシア ホストマザー)

2018年、長女は3年生でした。1年生のころから私と一緒にボランティアでこの活動に参加していた彼女は「ホストファミリーがやりたい!」と言いました。しばらくして、マレーシアからザクアン先生がやってきました。英語もマレー語も話せず緊張していた娘達。しかし彼は3週間の滞在中、娘達にとっても優しく接してくれ、たくさん遊んでくれました。その様子はまるでもう一人の父親ができたみたいでした。

ホストをしている間、イスラム教徒である彼のため、ハラールフードを用いた調理をしました。日本ではなかなか入手困難でしたが、それ以外は普段の生活と何ら変わりなく暮らすことができました。

休日には三保の松原や日本平から富士山を眺めに行きました。ザクアン先生や娘たちにとって初めての富士山はとても美しく、誇らしく、日本の良い思い出になりました。

別れはとてもさみしかったです。いつかマレーシアで彼と再会するのが私達家族の願いです。



大石 清教 (2018 鬼崎南小 タイ ホストファザー)

受入が決まる前から、私同様に英語が全く出来ず、少し臆病な娘が外国人の子と仲良く出来るのか大変不安でした。初日、我が家に着くや否や懐郷の涙を見せた時、不安の中と暗澹たる思いでしたが、全ては杞憂でした。娘は人形や玩具を次々と持って行き慰め始めたのです。しかも数分後には2人で遊び始めました。その甲斐もあってか、翌日からは旧知の親友の様に、或いは姉妹の様に手を繋ぎ、どこへ行くのも一緒でした。どの様に意思の疎通を図っているのか不思議でしたが、彼女がタイへ帰って一年が経過しますが今でもビデオ通話を2人で楽しんでいます。



この受入を通じ、国際交流に言語は障壁ではないということを娘に教えられました。また頼りないと決めつけていた娘が、実は優しさや積極性を持っており、しっかりと成長していた事に気付きました。子供の為に、と決めた受入でしたが、結果的には私自身にとって貴重な経験であり、大変有意義なものだったと感じています。

加藤 玲美 (2018年 西浦北小 オーストラリア ホストマザー)

我が家で受け入れた派遣生は、アメリカ生まれオーストラリア育ちで、インド人の両親を持つ女の子でした。マッチングの時に母国語がタミル語だと聞いていたので少々不安でしたが、実際に会ってみると彼女は流暢な英語を話し、言葉に困ることはほとんどありませんでした。上の娘は携帯の翻訳アプリの力を借りつつ、カタコトの英語を駆使して、自然に彼女に接し話しかけていました。下の娘も一緒にぬり絵をするなど楽しく過ごせました。



派遣生の彼女はとても賢く落ち着きがあり、手のかからない子でした。一人っ子のせいか喜怒哀楽をあまり出さなかったため、遊びに行ったり、スタジオで着物やドレスの写真を撮ったりしても、楽しいのか楽しくないのかわからず戸惑うこともありましたが、おかげで私達家族も怒ったりケンカをしたりすることもなく、平穏に過ごせたように思います。

最後に、この貴重な体験をさせて下さいましたこの事業に関わる全ての皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

水野 千愛 (2019年 大野小 中国 ホスト児童)

ティンティンが日本へ来る前から、私とティンティンはテニスを習っていることや、犬が好きなことなどの共通点があったので、きっと仲良くなれると思っていました。空港で初めて出会った時は、ティンティンはぴょんぴょん跳びはねて私のところに来てくれてとてもかわいかったです。ティンティンはとてもフレンドリーな子で、初めて家に来た時も持ってきてくれた柳州のパズルと一緒に遊んですぐに私たち姉弟とも仲良くしてくれました。

最後の日の夜にティンティンが得意なピアノを弾いて聴かせてくれたのは、とても上手な演奏だったので家族みんなで感動しました。

ティンティンとの生活は毎日楽しいことしかなかったです。お気に入りのぬいぐるみとティンティンと私の妹と3人で枕を並べて寝たのもすごく楽しかったです。

これからもこのつながりを続けていって、今度は私が中国に行つて再会したいです！



異文化体験をして

吉原 優翔 (2015年 常滑西小 タイ派遣児童)

僕は4年前の6年生の時にタイへの派遣に参加しました。そこで初めてのホームステイや外国の学校、食べ物などで異文化の体験をしました。まずは、ホームステイ先で経験したことです。僕がホームステイをしている間に母の日がありました。日本の母の日では家族がお母さんにカーネーションを渡す文化がありますが、タイでは、子供達が1人ずつお母さんの足を洗ってタイの伝統的な器にプレゼントを入れて渡す儀式のようなものがありました。その体験をして王妃やお母さんをとても大切にしているのだと思いました。そしてお母さんを大切に、家族を大切にすることは世界共通のことなんだということも感じました。

このような体験を通して、今でも国際交流に興味を持ち今年の夏にも短期留学をしました。これからも国際交流もしていきたいと思っていますし、来年もチャンスがあるならばまた短期留学をしたいと思っています。

小学生の時から海外へ行くという素晴らしい経験させてくれた TSIE にはとても感謝しています。



澤田 侑輝 (2015年 小鈴谷小 オーストラリア派遣児童)

僕は小学校6年生の夏休みに、オーストラリアのリージェンシーパーク小に行ってきました。行くまでは言葉が通じるか、友達ができるか不安でした。しかし、ホストが僕の話を一生命聞いてくれたので、英語が上手くない僕でもコミュニケーションを取ることができました。学校でも友達できて、一緒に遊び毎日とても楽しかったです。家ではホストに習字や折り紙を教えてあげると、とても喜んでくれました。日本の遊びを楽しんでくれたことがうれしかったです。食事は慣れない味のものもありましたが、ホストが味付けを工夫してくれたのでおいしく食べられました。

僕はこの体験で外国への印象が変わりました。今までは言葉が通じないという不安や自分のことを理解してもらえないのかという思いがありましたが、自分のことを相手に積極的にアピールしていけば受け入れてもらえるようになりました。将来、ホストに会いに行ったり、他の国にも行ったりしてもっと多くの人と交流をしたいです。



水上 穂月 (2016年 常滑東小 オーストラリア派遣児童)

私は、2016年常滑東小学校5年生の時に、TSIEの派遣生として、オーストラリアのマウントビュー小学校に行きました。

当時6年生だったジェイナのファミリーが私のホストをしてくださいました。

オーストラリアで3週間過ごした中で私が一番大切だと思ったことは、恥ずかしがらずに堂々と自分の思っていることを相手に伝える、ということです。最初は難しいと思いましたが、海外では、自分で話さなければ何も伝わらないことがわかり、だんだん自分から話すようになりました。知っている単語だけでも、なんとか伝えようとすれば、相手もなんとか理解しようとしてくれます。自分で考えて話すことはとても難しかったけど、実際の生活の中で英語を使って自分の気持ちを伝えようとするのは本当に良い経験になったと思います。

2019年の夏休みに私はジェイナファミリーと再会することができました。久しぶりだったので最初は少し緊張しましたが、すぐ仲良しに戻ることができました。

これからも英語を勉強して、すばらしい思い出をくれたホストファミリーとずっと連絡を取り続けていきたいです。



曾田 恋 (2016年 大野小 インド派遣児童)

私は、小学校5年生の時に派遣団としてインドに行きました。インドに行って日本では経験できないことがたくさんありました。

特にインドのカースト制度が印象に残っています。ホストファミリーは色々な場所に連れて行ってくれました。出かけると、毎回、身体的にハンディキャップを抱える大人や、小さな子供たち、物乞いをしたりする様々な人を見つけ、衝撃的でした。

それでも、タージマハルやインド門などの観光地はとても綺麗で、その素晴らしさにとても感動しました。

ホストファミリーがとてもフレンドリーな人たちばかりだったおかげで、少し不安だった派遣もとても楽しめました。

2週間という短い期間でしたが、たくさんの貴重な思い出を作る事が出来ました。またインドを訪れたいです。



吉田 光汰 (2017年 鬼崎南小 中国派遣児童)

僕にとって中国での2週間は2年経った今でもついでこの間の出来事のようにたくさんの思い出が浮かび上がります。僕が6年生の時に行った中国では様々な体験をしました。ぼくがバイオリンを習っているのを知ったザイザイのお母さんがサプライズで二胡の先生を自宅に呼んで体験をさせてくれたり、運動が好きなぼくの為に、ゴルフレッスンもさせてくれました。ぼくは中国に着いてすぐにザイザイの家族と本当の家族のようになりました。ぼくは英語が話せるわけではなかったけど、ジェスチャーでやり取りが出来、言葉の壁はほとんど感じませんでした。中国で過ごした2週間はぼくにとって一生の宝物です。今でもぼくの部屋の棚には、中国での思い出のグッズがたくさん飾られています。国際交流をきっかけとして、今後も色々チャレンジしたいです。



最後にぼく達がこういう素晴らしい体験をすることが出来たのは TSIE のおかげです。TSIE があるおかげでたくさんの子供が国際交流を体験することが出来ています。ありがとうございます。

幾世 真純 (2018年 三和小 オーストラリア派遣児童)

私は 2018年8月に三和小派遣団の一員としてオーストラリアに行きました。ホストファミリーのケイトとアナはいつも笑顔でとてもかわいく、本当の家族のように優しくしてくれました。私はたくさんの貴重な経験をすることができました。

最も思い出に残っていることは学校へ通ったことです。日本で練習したカルチャーショーやクラスレッスを披露する場がたくさんありました。英語で読んだももたろうの紙芝居、ソーラン節、リコーダーなど、練習はとても大変だったけれど、発表し終わってから大きな拍手がもらえると、本当に嬉しかったです。

一番楽しかった授業は、体育でフットボールをしたことです。ボールはラグビーボールみたいな形をしていて、思う方向に蹴るのが難しかったけれど、先生のアドバイスのおかげでボールをボールの中に蹴ることができました。

休み時間に外で遊んでいると話しかけてくれる子、手を振ってくれる子、帰国する時悲しんでくれる子などたくさんの人と交流できたと思います。一生忘れられない素晴らしい思い出ができました。



田上 紗菜（2018年 鬼崎北小 メキシコ派遣児童）

私は外国との交流に興味を持っていたので、メキシコとの国際交流に参加しました。

メキシコに行くために英語やスペイン語を事前に勉強しました。行く前はとても緊張しましたが、メキシコに着くとホストファミリーがとても歓迎してくれたので、安心して過ごせました。時間をしっかり守る日本人に比べて、メキシコの方は時間をあまり気にしないようで、私もゆっくりと過ごすことが出来ました。また食の面では、氷を食べたり、生水を飲んだりしないなど気を付けなければならないことが多くあると聞いていたので不安でしたが、ホストマザーは私の口に合うようなメキシコ料理を出してくれたので、安心して食べる事が出来ました。

メキシコで楽しく過ごした2週間後のお別れの時はとても悲しく、離れがたかったです。

メキシコ交流を体験して、いろいろ成長できたと思っています。この体験を忘れずに、今後に生かしていけるよう頑張りたいと思います。



久田 剛嘉（2019年 西浦北小 マレーシア派遣児童）

ぼくは最初は国際交流にあまり興味がありませんでした。でも一つ下のいとこが受入れをしたりするのを見てぼくもやってみたいと思うようになりました。そのいとこと一緒に、マレーシア派遣の説明会に参加したら、マレーシアの人と交流できたり、派遣に参加した人の話を聞くことで「面白そうだな」という気持ちになりました。

実際に行くことが決まってからは準備やカルチャーショーの練習は大変だったけど、マレーシアで発表して喜んでもらえた時はうれしかったです。マレーシアでは、ホストファミリーとキャンプに行って川遊びをしたりホストとバドミントンをして遊ぶ時には言葉がなくても十分楽しむことができました。

マレーシアにいる間は、家族にすぐ会いたくなって、改めて家族の大切さに気付くことができました。次、もしまたマレーシアに行く機会があったら、家族と一緒に行って、ぼくが行った所を案内したいと思います。



鈴木 理夏（2019年 小鈴谷小 タイ派遣児童）

私は、8月3日から24日までの3週間、タイのプラサーンミット校へ行きました。印象に残っていることは、派遣中に誕生日を迎えたくさんお祝いしてもらえたことと、念願だった象に乗れたことです。また、5年前に小鈴谷小で受け入れをしたプラサーンミット校の派遣団にも再会できて感動しました。

タイでは、食事がなかなか口に合わず、英語やタイ語が分からず言葉の壁も難しかったです。ホストのナムがは習い事に忙しくて、一緒に過ごす時間も少なく泣けてしまう日もありました。そんな時、ホストママや先生方、仲間が温かく見守ってくれました。人の優しさや大切さをとても感じました。

私はこの国際交流という素敵な経験を通して、人と人とのつながりの深さや、お互いを思いやる行動の大切さを学びました。支えてくださった皆様に感謝しています。これからもっと英語とタイ語を勉強して、またタイへ行き再会できることを楽しみにしています。



引率者のひとり言

片山 貴之 (2015年 西浦北小 オーストラリア引率者)

熱烈な歓迎を受けてはじまった国際交流事業。私がオーストラリアのウィーデンハイツ小学校に訪れたのは、2015年8月のことでした。

オーストラリアでの派遣団は、新しくできた友達と話したり、一緒に昼食を食べたりと、笑い声が響き渡るくらい楽しく充実した日々を過ごしていました。カルチャーショーは、日本語を紹介したり、書道を披露したり、ソーラン節を踊ったりしました。とても生き生きとした姿で堂々と表現していました。また、観光では、フィリップ島でコアラやペンギンを観たり、メルボルンのフリンドーストリート駅に行ったりしました。どれも私にとって貴重な経験となりました。

国際交流事業は、自国のよさに気付くだけでなく、他国の文化を知ることができます。今後もより長く続くことを願っています。



大森 奈津葉 (2016年 大野小 インド引率者)

小学校時代の受け入れと派遣。そして、教員になってからのインドへの引率。TSIEを通して得たものは、他では得ることのできない貴重な財産となりました。

私自身、TSIEで5・6年生のときにインドからの受け入れとオーストラリアへの派遣を経験しました。歴史や文化、習慣や価値観の全く違う人たちとふれあうことは、内気な性格だった自分を大きく変えるきっかけとなりました。

引率者としてインドを訪問したときには、日本から離れて悲しむ中、言葉の壁を乗り越えて頑張る子どもたちと本当の家族のように温かく接するホストファミリーを見て、心が繋がる国際交流の良さを改めて感じました。また、国際交流を通して子どもたちは、とてもたくましく成長していました。

TSIEで、さまざまな経験ができたことに感謝しています。そして、これからも多くの子どもたちが国際交流で成長していく姿を見守っていきたいです。



木原 拓馬 (2017年 鬼崎南小 中国引率者)

TSIE 創立 25 周年おめでとうございます。私は 2017 年の 8 月に TSIE 初の中国・ワンタンルー小学校への派遣事業に参加させていただきました。自分自身日本から見た中国しか知らず不安もありましたが、実際に行って中国という国を感じると、大きく価値観が変わりました。子どもたちも文化の違いや言葉の壁に戸惑いながらも、1日1日を無駄にせず、帰国するときには一回りも二回りも成長し、初めは消極的だった子どもたちが、たくさんの人とコミュニケーションがとれるようになっていました。その姿が見られたのも、ホストのみなさんが温かく子どもたちを迎えてくれたからだと思っています。言葉は通じなくても心は通っていました。文字ではうまく伝えられませんが、この気持ちは実際に相手の国へ行って交流しないと感じられないと思います。是非たくさんの人に国際交流の良さに触れてもらいたいと強く思いました。

最後にこのような貴重な経験をさせていただいたこと、心から感謝しています。



河合 源亨 (2017年 常滑西小 マレーシア引率者)

私は平成29年に常滑西小学校のマレーシア派遣に参加させていただきました。3週間もの間日本語が通じず文化も違う国でやっていけるか不安がありました。たくさんの方々の支えのおかげで素晴らしい体験をさせていただくことができました。外国の文化に触れることで新たな発見があったり、日本文化の良さに改めて気づかされたりしました。その中で特に感じたのが、相手の文化を尊重し、相手を理解しようとする心と笑顔の大切さです。これは日本での普段の生活でも意識しなくてはいけないことだなと感じました。



正直この年になってこんなにたくさんの刺激を受けるとは思っておりませんでした。それは単なる海外旅行ではなくて、ホームステイをしたり、学校生活を一緒に送ったりすることができたからだと思います。子どもたちと一緒に貴重な体験をさせていただけたことに感謝するとともに、これからも常滑の子どもたちの世界への扉を開き続けてほしいと願っております。創立25周年、本当におめでとうございます。

藤木 克晴 (2018年 鬼崎北小 メキシコ引率者)

迎えてくださったその日から、同じ言葉をシャワーのように浴びてどんなに安心したことか。「大丈夫。何も心配なくていい。あなたは家族なんだから。」彼らの表情と抱擁とで心からの言葉であることを受け止めていく。見知らぬ土地で、子どもたちの体調管理をはじめ、TSIEの趣旨に基づいた学びにつながっているのかなどと不安を感じる場面でも、HFが築くネットワークと迅速な対応とで穏やかで感動的な日々を送ってきた。TAEという学校での体験と市内観光とが半々であったが、国が抱える



問題を互いに考えたり家族間で築く人間関係の重さを確認したりする時間は貴重だった。私の妻や子どもたちにも心配りをいただき、自分の感性や考え方にまで大きな変化をもたらした派遣だった。

何より手探りで一から築く人との関わりを通して、一回り成長する子どもたちを間近に見ることができ幸せだった。心から感謝したい。「ピバ メヒコ」

金山 朋代 (2018年 三和小 オーストラリア引率者)

私は、2018年8月10日～8月29日まで、オーストラリアにあるマウントウェイバリー小学校を引率者として訪れました。

平日は小学校で1日を過ごしました。はじめ、子どもたちは、休み時間になっても三和小学校派遣団の控え室で過ごすことが多く、交流できるのかと心配でした。しかし、現地の子どもたちと一緒に外で遊ぶうちにだんだんとコミュニケーションを取るようになり、控え室で過ごす時間が減っていきました。心から楽しそうにしている姿が今でも心に残っています。言葉は通じなくても、児童たちなりに工夫して交流している姿に感心しました。

また、ホストファミリーの方たちは、我が子と接するように三和小の子たちと接してくれ、帰国時に空港で見せた涙は、本当の絆を深めることができた証だと感じました。今回の訪問は、子どもたちにとってかけがえのない経験になったと思います。そんな機会に引率者として携わることができ、嬉しく思います。



栗本 愛子 (2018年 常滑東小 タイ引率者)

プライベートで海外へ行くのではなく、派遣団のリーダーとして、東小の派遣団の児童を連れてタイへ行くことは、楽しい気持ちよりも不安な気持ちの方が大きかったです。しかし、そんな不安な気持ちはタイで出会った方々の「心の温かさ」のおかげですぐに消え去りました。

出会った瞬間から、ホストファミリーは本当の家族のように、温かく出迎えてくれました。派遣団の児童に元気がないと心配してくれて、私と一緒に児童を励ましてくれたり、児童のホームステイ先の家族に連絡をとってくれたり、私の心強いパートナーでもありました。

タイの方々は、日本人の私たちに積極的に関わりをもとうとしてくれました。タイの児童や先生方、ホストファミリーや町で出会った人々など多くの方が私たちを大切にしてくれていることを感じました。不安な気持ちはタイの方々の「心の温かさ」のおかげで楽しさに変わりました。

自分の目で見て、耳で聞いて、心で感じた2週間のタイでの生活はかけがえのないものとなりました。このような貴重な機会をいただいたことや派遣を支えてくださった多くの方々に感謝の気持ちでいっぱいです。



北村 清 (2019年 小鈴谷小 タイ引率者)

TSIE が創立 25 周年を迎えられましたこと、心からお祝い申し上げます。

私は令和元年の8月に、タイ派遣団のリーダーとして、プラーンミット校への派遣事業に参加させていただきました。タイ訪問は私自身にとっても初めての経験でしたので、最初はとても緊張していたことが懐かしく思い出されます。派遣団の子どもたちのバイタリティ・派遣先の教職員の方々からの気遣い、ホストファミリーの優しさなどに助けられ、なんとかリーダーとしての役割を果たすことができました。

派遣団の子どもたちは、長期間にわたって親元を離れる不安感・食生活・言語・習慣などの壁を乗り越えるために悪戦苦闘を強いられました。しかし、ホストファミリーの献身的な気遣いに助けられたこと、また、お互いに励まし合うことによってその壁を乗り越え、大きく成長することができました。今後は、派遣団に参加した経験を生かし、国際交流に貢献してくれることを期待しています。

最後に、派遣事業に力を尽くしていただいた方々に感謝するとともに TSIE のさらなるご発展を祈念しております。



2018年TSIE 総会記念公開座談会

日 時 2018年5月12日(土) 15時
会 場 とこなめ市民交流センター2階講義室

【出席者】

山本 千浪	YAMAMOTO CHINAMI	西浦南小	2008年	オーストラリア受入	金城学院大学生
小西 彩加	KONISHI AYAKA	西浦北小	2013年	アメリカ派遣	旭丘高等学校1年
村田 莉菜	MURATA RINA	常滑東小	2006年	オーストラリア派遣	オーストラリア1年留学
平川小百合	HIRAKAWA SAYU	常滑中	2001年	マレーシア派遣	常滑西小国際交流委員会委員
大森奈津葉	OOMORI NATZUHA	鬼崎南小	2002年	オーストラリア派遣(前年インド受入)	

大野小教諭(2012年大野小インド派遣団引率者)

【司会進行】 福田 泰造 FUKUTA TAIZO TSIE 会長

【記 録】 平岡 守 HIRAOKA MAMORU TSIE 副会長

福田 TSIEの小学生・中学生のための国際交流活動が始まって23年となり2年後には創立25周年の節目となります。

社会環境は創立当初と比べ大きく変化してきました。そこで本年と来年に亘りこれまでTSIE活動を体験したOBの方々に集まって頂きTSIEの「これまでとこれから」について意見を覗きTSIEの存続に向けての参考資料としたいと思えます。

大森 私は小学生の時にインドの派遣、オーストラリア児童の受入、教師となりインドへ引率者として参加しました。

平川 中学3年生の時、マレーシアの派遣に参加しました。現在は、団体職員(JA あいち知多)として働いています。

村田 2006年に常滑東小からオーストラリアに派遣させて頂きました。現在は学生です。

小西 小学校6年の時、アメリカの派遣を経験し中学1年でオーストラリア派遣児童を受入。今は高校2年生(旭丘高校)です。

山本 西浦南小5年生でオーストラリア派遣児童を受け入れました。今は金城学院大学文学部で英語を学んでいます。今日は宜しくお願いします。

福田 TSIEの経験が現在の自分にどのように活かされているかお聞かせください。

山本 小学校5年生の時、オーストラリア派遣児童を受け入れました。受入時の反省として英語での会話があまりできず悔しい気持ちから英語を話せるようになりたい一心で大学では英語を専攻しました。このようにTSIEが私の将来を導いてくれました。

小西 TSIEのアメリカ派遣では自分で考えて自分で動くということを覚えました。例えば中学校に進んでから部活では自分で動かなければならない時に瞬発力を得ることができ大変役に立ったと思います。

村田 オーストラリアの派遣を体験させて頂きました。英語が話せたらもっと素晴らしい体験ができたのではと思い英語を勉強してそれを生かした仕事に就こうと思いました。その結果、大学では英語を専攻しました。大学時代に台湾の小学校に研修に行きましたが自分の英語力はまだまだということに気づき語学留学しました。留学先はオーストラリアのメルボルンです。TSIEは私に目標を与えてくれました。

平川 今から17年前に中学生プログラムでマレーシアに派遣させて頂きました。先ほど中学生プログラムは休止していると聞いてすごくショックを受けています。常滑市内4中学校の合同派遣でした。私にとっては初の海外体験で見るもの全てが新鮮でした。その後、高校に進学し高校ではオーストラリアの派遣団に加わりました。大学に進んでからオーストラリアへ留学し高校の時のホストファミリーと再会しました。こうした経験はTSIEに参加した結果だと思っています。

福田 中学生プログラムについては常滑中、青海中、南陵中まで実施しましたが鬼崎中の実施準備段階で受

験や部活動そして、不登校問題などに対して国際交流ばかりにかまけておれないという鬼崎中の校長先生の話を読んでの決定をしました。今後も実施に向けて様々な角度から検討が必要です。

- 大森 私は小学5年生の時インド派遣団を受入れた結果、今度は自分がホームステイを体験したいと思い6年生の時にオーストラリア派遣団に加わりました。相手のホスト児童はとても人見知り激しく1週間ホームシックを経験しました。ホストママはどうしていいかわからなくてリーダーの先生に連絡したりして対応してくれました。その結果それ以降の2週間は吹っ切れていろんなことに挑戦したり学校で子供たちに話しかけたりしました。派遣以降はいろんな国のことが知りたいということで高校の時、様々な国の子どもが通う学校に行き勉強しましたが日本人は英語ができないと言われ嫌な思いもしました。今の自分にTSIEの国際交流経験が生きていると思うのは海外旅行が好きで今でもいろんな国でいろんなことがしたいという好奇心があり、縁があって常滑市で教員を務め今度は子ども達の気持を理解した上で引率者として参加する機会を得ました。かつて経験したことを沢山伝えることができるのでTSIEを通してよい経験ができたと思っています。
- 福田 大森先生には今後も自分の体験を生かして引率者として今後も、派遣団を引率して頂ければと思います。
- 福田 次にTSIEは2年後、創立25周年の節目となります。セントレアの誘致が常滑沖に決定してから29年、工事着工から17年、開港から13年となりTSIEはセントレアと共に小学生の為の国際交流を行ってきたわけですが小学生が海外でホームステイをすることについてどのように思いますか。
- 小西 TSIE事業に参加してアメリカに行き自分の考え方が180度変わりました。その頃、小学校では英語は普段のカリキュラムに入っていないで時々英語を簡単に勉強する程度でした。役に立つ英語は中学校に入ってからで英語の勉強をがんばりました。中学校2年の時イギリスでの語学研修プログラムの応募がありこれだと思って申し込みをして参加したのはTSIEに参加したことがきっかけだと思います。小学生の異文化体験がこのような中学生の海外研修や高校に進学しても繋げてゆく基礎となるプログラムだと思います。
- 村田 私がオーストラリアに行った時は3週間たってもう少し残りたいと思いましたが、派遣団の中にはそうでない子もいました。派遣団の中には英語が話したい子やオーストラリアのことをもっと何でもいから体験したい子もいて海外でのこうした体験は一つの可能性を見出す手段として素晴らしいと思うのでTSIE活動はこのまま続けて欲しいと思います。
- 平川 私がマレーシアに行ったのは中学生の時です。たまたま中学生プログラムのお話を聞き応募しました。小さい頃から異文化に興味がり体験すると何かしら自分の人生に影響が出てくると思うので小学生から派遣、受入をして相手国のことを調べ知ることは大事なことでと思います。
- 大森 小学生は好奇心が旺盛です。5・6年生の担任をしていた時も外国語活動をしている時も大変意欲的で英語を習っている子も習っていない子も話したい気持ちを持っているわけですが実際に外国の人と話す機会をつくってあげないと出来ないことで常滑の子ども達はTSIEの派遣・受入事業それが出来る。只、少子化の影響でそれが出来なくなってくる状況は理解できますが是非TSIE活動は続けて頂き子ども達や自分達が学ぶ場所を一緒につくっていったら良いのにとと思います。
- 福田 次に、TSIEはこれまでにオーストラリア・インド・マレーシア・アメリカ・タイ・メキシコ・コスタリカ・中国の8カ国と交流してきました。このほかに交流相手国の希望があれば教えて下さい。
- 村田 私は南米の国との交流がよいと思います。コロンビア人やブラジル人は日本のことが本当に大好きで例えば新幹線のこと等矢継ぎ早に聞いてきます。子ども達の視野を広げるためにもこうした地球の裏側の国の人たちとの交流は必要だと思います。
- 平川 私は韓国がよいと思います。その理由は国レベルでは韓国はどうかという風潮がありますが個人レベルで付き合いえばその良さが分かりお互いの印象が少しずつ変わってくると思います。そして個人レベルで付き合いをお互い増やして行けば隣の国ですし近い将来仲良くなれるのではないかと思います。
- 大森 私もアジア圏の国と交流が出来ればと思っています。地図で見ると近いのにとっても文化が違う国もありそれが興味深い。日本はアジアの中では裕福な国ですが、他のアジアの国の中には子ども達の環境が同じアジアの国なのにどうしてこんなに貧富の差があるのかといった経験が出来るのでアジア圏との交流を望みます。

福田 様々な意見ありがとうございます。最後に皆さんに TSIE の今後についての意見を頂ければと思います。TSIE が現在抱えている一番の問題は会の存続についての問題です。少子化の影響で委員数も減り小規模学校では事業委員会の構成が出来なくなり活動休止の学校もあります。TSIE のこれからについて提案をお願いします。

山本 一番現実的な案は合同チーム案だと思います。小規模の学校で準備する場合一人の委員の役割が増え責任も重くなります。委員が快く参加出来ないと家族のサポート体制が整わないので近隣の小学校同士が合同で支え合って行けたら理想的だと思います。

小西 先ほど中学生プログラムが休止しているのは中学校が抱えている問題が多過ぎて国際交流以外の問題にも取り組んで行かなければいけないと言ったある校長先生の意見が紹介されました。確かに中学生は部活や勉強も小学生と違って忙しくなると思います。同じ中学校区の小学校から中学生に声をかけてその中でやりたい人を募り小学校に手伝いに行ってもらって TSIE 活動に参加してもらおうとすごくいいと思います。場合によっては引率者補佐と言うことで小規模学校では引率者不足を中学生で補うのも一つの方法だと思います。

福田 今の小西さんの意見は大変参考になります。例えば南陵中学校区には西浦北小学校、西浦南小学校、小鈴谷小学校の3つの小学校がありますがこの3校に中学校を加え合同チームで交流を実施すれば地域を挙げて交流が出来ると思います。又、引率者の補助として引率者のサポート役もやってもらいます。相手校にも近隣の中学校に参加して頂き中学生には委員会や学校のお手伝いをお願いし、相手国の産業、社会についての体験学習プログラムも組み込んで異文化体験する。もちろん中学生同士の交流も活発に行うことが出来ます。

村田 私も中学校と連携するのはよいことだと思います。そして、中学校から大きく発展させ常滑市全体で中学校を中心に連携するのがよいと思います。外国人と結婚した知人も複数いますのでその方々にも声をかけ参加して頂き常滑市全体で TSIE のプロジェクトを進めて行くのも一つの方法だと思います。

大森 私も先ほどから言われています中学校区での事業実施が良いと思います。中学校には小学校で経験した親子も在籍しているのでなおさら手助けをしてくれるのではないかと思います。又、地域で参加したい方や英語が堪能な方もいらっしゃるのそれが広がってゆけば良いと思います。

福田 まだまだ伺いたいことは沢山ありますが予定時間を大幅に超過しているようです。皆さんの TSIE に対する思いが良く分かりました。本日はありがとうございました。



司会進行 福田泰造



左から 山本 千波 小西 彩加 村田 莉菜
平川小百合 大森奈津葉

2019年TSIE 総会記念公開座談会

日 時 2019年5月11日(土) 15:20

会 場 とこなめ市民交流センター2階 講義室

【出席者】

東 未悠 AZUMA MIYU 愛知教育大学 4年
西田 和弘 NISHIDA KAZUHIRO 県立常滑高等学校 3年
成田凜太郎 NARITA RINTAROU 県立旭丘高等学校 3年

【司会進行】 福田 泰造 FUKUTA TAIZO TSIE 会 長

【記 録】 千葉 千早 CHIBA CHIHAYA TSIE 副会長

福田 少子高齢化が現実となりこれからはレイト少子高齢化（少子高齢化以後）を考えて行かなければならないと思います。これまでTSIE活動を経験された高校生、大学生と一緒にTSIEの今後について意見を覗きたいと思います。

東 愛知教育大学4年生の東 未悠と申します。初めての国際交流の経験は西南小2年生の時、マレーシアのスリクアラランブール小のリーダーの先生を受入れたことでした。4年生の時はオーストラリアの児童受入れと翌年にはオーストラリアに私自身が派遣団として訪問しその後タイの受入れや弟がコスタリカ派遣団に加わり、他団体でイスラエルや個人的にはマレーシアのホームステイやシンガポールからの受入も経験しました。ホームステイで海外の人と一緒に一つ屋根の下で生活を共にするのは素晴らしいことだと実感しています。

成田 旭丘高校3年の成田凜太郎と申します。私が最初に国際交流を経験したのはTSIEではなくて2007年のクロアチアとの交流でした。短い期間でしたが国際交流を知るきっかけとなりました。TSIEでは小学校5年の時にインドを受け入れ、その1年後にタイ派遣に参加しその後、妹がタイの受入を経験しました。今年のゴールデンウィーク中に妹が受入希望したタイの先生が遣ってきました。今後も交流を続けたいと思います。

西田 常滑高校3年の西田和弘と申します。私は直接自分がTSIEでの経験はなかったのですが弟が受入を経験させて頂きました。3週間の体験は、長いようで短い貴重な体験でTSIEには感謝しています。

福田 ありがとうございます。次に、TSIE活動を通して学んだこと、今後この体験を自分の人生に今後どのように生かして行きたいかをお話して頂きます。

東 私がTSIE活動を通して学んだ事は、自分は人を支える事がしたいと思っていましたがそのことについて対象を世界に広めてくれたのはTSIEでした。私は高校時代に部活のマネージャーをしましたが人を支える事にやりがいがあったり喜びを感じたりしていました。教育学部に進学した理由も子ども達の生活を支える事が出来たと思ったからです。そんな時、TVのマレーシア特集をみて小学校2年生の時にTSIEでマレーシアの先生を受入れた事を思い出しました。その日のうちにその先生に連絡して数カ月後には先生の家にホームステイしていました。その後大学に進み3年生から4年生にかけて、マレーシアの学校に行くことにしました。そこで経験したのが落ちこぼれの子ども達をなんとかしてあげたいという事でした。そんな時、外資系の工場を訪れる機会を得、若い従業員は自分で提案しながら働いていて生き生きとした生活をしているのを見ました。これだと思い、落ちこぼれた子ども達に将来こうした企業で生き生きとした生活が出来ないかと思いました。留学中にこうした思いが出来たのはTSIEの体験があったからだと言う事を実感しています。

成田 私が学んだ事は主に二つあります。一つ目は文化や考え方が外国人と違いがあることです。そういう違いがあってもそれを埋めることが出来ることをすごく感じました。剣玉等の日本文化教室あってクラスレッスンに参加して発表して派遣団と一緒に遣ってみようかということです。言語の問題があり打ち解けられなかったと思います。体験を通して距離感が縮まって他愛のないようないろんなことが話せたのが思い出として残っています。これらのコミュニケーションによって他の人を思いやる心と

か周りを客観的に判断する能力ということも非常によく学ぶ事が出来たと思っています。二つ目は、日本人は他の海外の人達と比べて特に外国、外の地域に対して抵抗感のようなものが多いのではないかと思います。こうした抵抗感がTSIE活動を通して減ったのではないかと思います。派遣・受入すると彼ら彼女らも人間でゲーム遊びとかそういうことで無く普通に人間としていろんな事が出来ると言った事を感じました。インドを受入れ、空港でドラゴンボールのゲームを見せてくれ親近感がわきました。一緒にTVをみたり、ゲームをしたりした時、全て日本語だったのでボディラングエッジを交えて楽しかったという記憶があります。こうした事は交流した国や世界に興味を抱くきっかけの一つで得られるものがあるのではと思います。そこで受けた刺激が将来の夢に繋がるのではないかと思います。

福田 西田君はどうですか。

西田 先ず海外に興味を持ったきっかけについて話します。小学4年生の時に父とニューヨークへ行きました。その時 JF ケネディ空港のスターバックスで好きなものを買ってきなさいと言われ買い物をしました。自分の英語力のなさに気付きもっと英語を話したいと、もっと海外の人と関わりたいと思いました。中学生の時、メキシコの受入をしました。その時、国際交流はお互いの文化の交換だということに気付きました。例えば玄関で靴を脱ぐのが我々には当たり前の事が彼らに経験が無く土足で居間に入るといった経験をしました。これが本当の異文化体験だと思います。お互いの文化を教え合う事も交流の重要なことだと思います。TSIE についての今後の関わり方ですが、私たちが先生に代わって引率出来るようにはどうするか考えて行かなければと思います。

※西田君は小規模小学校のリーダー不足について中学生や高校生がサポートする提案がありましたが昨年の座談会でも同様の提案がありました。昨年の座談会記録をご参照下さい。

東 TSIE や各学校の委員会の存続には学校間の連携が必要だと思います。只、これは市内9小学校との協議等大変難しい課題があります。

成田 TSIE との今後の関わりについてはOBとして参加しなるべく多くの情報提供をして行くことを考えています。このような事業があることをより知ってもらうこともTSIEを存続させて行く為の手段となるのではと思います。その為、TSIEのホームページやフェイスブックそして、SNS例えば、ツイッターやラインを使って活動を広報して行けば若い人向けになると思います。

福田 ありがとうございます。若い皆さんの意見を聞いていますと少子化高齢化と言ってTSIEの存続ばかり心配していた自分が恥ずかしくなります。もっとTSIE活動を時代に合わせて発展させることこそが長く続く秘訣だと分かりました。



左から 東 未悠・成田凜太郎・西田和弘

TSIE 実績報告

Tokunaga City Students' International Exchange Conference Association



—2020—

1995				児童引率
常東小	派遣	オーストラリア	ロービル小	8 2
常西小	派遣	オーストラリア	アップウェイ小	8 2
	受入	オーストラリア	アップウェイ小	6 1
鬼南小	受入	オーストラリア	ロービル小	6 1

1996				児童引率
鬼南小	派遣	オーストラリア	ロービル小	8 2
常東小	派遣	オーストラリア	ベルグレーブサウス小	10 2
	受入	イ ン ド	シティモンテソーリ小	10 2
鬼北小	受入	オーストラリア	ベルグレーブサウス小	6 2
西北小	受入	オーストラリア	コカトゥ小	6 2

1997				児童引率
鬼北小	派遣	オーストラリア	ベルグレーブサウス小	6 2
西北小	派遣	オーストラリア	コカトゥ小	6 2
鬼南小	派遣	マ レ ー シ ア	スパンジャヤ小	6 2
	受入	オーストラリア	ラングウォーリン小	8 2
常東小	受入	オーストラリア	ベルグレーブサウス小	10 3
大野小	受入	オーストラリア	ロービル小	6 1

1998				児童引率
三和小	受入	オーストラリア	アップウェイサウス小	7 2
	派遣	オーストラリア	アップウェイサウス小	7 2
大野小	派遣	オーストラリア	ロービル小	8 2
鬼南小	派遣	オーストラリア	ラングウォーリン小	8 2
常東小	派遣	イ ン ド	シティモンテソーリ小	6 2
常西小	受入	オーストラリア	ロービル小	6 2
西北小	受入	ア メ リ カ	グラハム小	4 2
西南小	受入	オーストラリア	リージェンシーパーク小	6 2

1999				児童引率
常西小	派遣	オーストラリア	ロービル小	8 2
西南小	派遣	オーストラリア	リージェンシーパーク小	10 2
大野小	受入	オーストラリア	カウズ小	4 2
鬼南小	受入	イ ン ド	シティモンテソーリ小	8 2
常東小	受入	マ レ ー シ ア	シャアラムセクション9小	8 2

2000				児童引率
大野小	派遣	オーストラリア	カウズ小	8 2
鬼南小	派遣	イ ン ド	シティモンテソーリ小	7 3
常東小	派遣	マ レ ー シ ア	シャアラムセクション9小	6 2
西北小	派遣	ア メ リ カ	グラハム小	5 2
三和小	受入	オーストラリア	ベルグレーブサウス小	6 2
鬼北小	受入	マ レ ー シ ア	シャアラムセクション9小	6 2

2001				児童引率
三和小	派遣	オーストラリア	ベルグレーブサウス小	9 2
鬼北小	派遣	マ レ ー シ ア	シャアラムセクション9小	6 2
中学校	派遣	マ レ ー シ ア	シャアラムセクション9中	8 2
大野小	受入	オーストラリア	ラングウォーリン小	6 2
鬼南小	受入	イ ン ド	シティモンテソーリ小	8 2
常東小	受入	オーストラリア	ロービル小	8 2
西北小	受入	オーストラリア	リージェンシーパーク小	8 2
西南小	受入	オーストラリア	アップウェイサウス小	8 2

2002				児童引率
大野小	派遣	オーストラリア	ラングウォーリン小	8 2
鬼南小	派遣	オーストラリア	コカトゥ小	6 2
常東小	派遣	オーストラリア	ロービル小	6 2
常西小	派遣	タ イ	デモンストレーションスクール	7 2
西北小	派遣	オーストラリア	リージェンシーパーク小	5 2
西南小	派遣	オーストラリア	アップウェイサウス小	6 2
三和小	受入	マ レ ー シ ア	シャアラムセクション4小	6 2
青海中	受入	マ レ ー シ ア	シャアラムセクション9中	8 2

2003				児童引率
西北小	受入	メ キ シ コ	センカ学園	6 1

※ SARS 問題の影響で、その他の事業を見合わせ

2004				児童引率
三和小	派遣	マ レ ー シ ア	シャアラムセクション4小	5 2
常東小	派遣	オーストラリア	ウィーデンハイツ小	6 2
中学校	派遣	マ レ ー シ ア	シャアラムセクション2中	8 2
鬼南小	受入	オーストラリア	リージェンシーパーク小	6 2
常西小	受入	タ イ	ブラザーンミット校	6 2
西南小	受入	マ レ ー シ ア	スリクアラルンプル小	6 2

2005				児童引率
三和小	派遣	オーストラリア	コカトゥ小	4 2
鬼南小	派遣	オーストラリア	リージェンシーパーク小	6 2
常西小	派遣	タ イ	ブラザーンミット校	6 2
西南小	派遣	マ レ ー シ ア	スリクアラルンプル小	7 2
大野小	受入	マ レ ー シ ア	ラジャムダ小	6 2
常東小	受入	オーストラリア	ウィーデンハイツ小	9 2
南陵中	受入	マ レ ー シ ア	シャアラムセクション2中	8 2

2006				児童引率
大野小	派遣	マ レ ー シ ア	ラジャムダ小	6 2
鬼南小	派遣	オーストラリア	ウィーデンハイツ小	6 2
常東小	派遣	オーストラリア	セルビー小	6 2
三和小	受入	オーストラリア	コカトゥ小	6 2
常西小	受入	タ イ	ブラザーンミット校	6 2
西北小	受入	オーストラリア	リージェンシーパーク小	6 2
西南小	受入	オーストラリア	ロービル小	6 2

2007				児童引率
常西小	派遣	マ レ ー シ ア	シャアラムセクション7小	6 2
西北小	派遣	オーストラリア	リージェンシーパーク小	6 2
西南小	派遣	オーストラリア	ロービル小	5 2
三和小	受入	メ キ シ コ	トーマス・アルバ・エジソン校	6 2
大野小	受入	タ イ	ブラザーンミット校	6 2

2008				児童引率
三和小	派遣	メ キ シ コ	トーマス・アルバ・エジソン校	6 2
大野小	派遣	タ イ	ブラザーンミット校	6 2
常東小	受入	メ キ シ コ	ブエナティエラ校	8 2
常西小	受入	マ レ ー シ ア	シャアラムセクション7小	6 2
西北小	受入	メ キ シ コ	オリンカ校	7 2
西南小	受入	オーストラリア	アップウェイサウス小	6 2
小鈴谷小	受入	オーストラリア	ロービル小	6 2

2009				
※ 新型インフルエンザにより事業中止				

2010					児童引率
三和小	派遣	タ	イ	ブラザーンミット校	6 2
常東小	派遣	オーストラリア		ロービル小	4 2
大野小	受入	メ	キシコ	プリンストン小	6 2
西北小	受入	マ	レーシア	シャアラムセクション9小	6 2
西南小	受入	コ	スタリカ	セントアンソニー小	6 2
小鈴谷小	受入	メ	キシコ	アメジャリ小	8 2

2011					児童引率
大野小	派遣	メ	キシコ	プリンストン小	6 2
西北小	派遣	マ	レーシア	シャアラムセクション9小	6 2
西南小	派遣	コ	スタリカ	セントアンソニー小	3 2
小鈴谷小	派遣	メ	キシコ	アメジャリ小	8 2

2012					児童引率
三和小	派遣	マ	レーシア	ラジャムーダ小	7 2
大野小	派遣	イ	ンド	シティモンテソーリ小	5 2
常東小	派遣	オーストラリア		リージェンシーパーク小	6 2
常西小	受入	イ	ンド	シティモンテソーリ小	5 2
西北小	受入	メ	キシコ	プリンストン小	4 1
小鈴谷小	受入		中国	コウエンロ小	6 2

2013					児童引率
常西小	派遣	タ	イ	ブラザーンミット校	8 2
西北小	派遣	ア	メリカ	ベサニ小	5 2
小鈴谷小	派遣	メ	キシコ	ブエナティエラ小	6 2
三和小	受入	マ	レーシア	ラジャムーダ小	9 2
大野小	受入	メ	キシコ	ブエナティエラ小	8 2
常東小	受入	ア	メリカ	ベサニ小	9 2
ISSE	受入	タ	イ	ブラザーンミット校	8 2

2014					児童引率
三和小	派遣	マ	レーシア	ラジャムーダ小	6 2
大野小	派遣	メ	キシコ	ブエナティエラ小	6 2
常東小	派遣	メ	キシコ	トーマス・アルバ・エジソン校	6 2
常西小	受入	メ	キシコ	トーマス・アルバ・エジソン校	8 2
西北小	受入	オーストラリア		ウィーデンハイツ小	7 2
小鈴谷小	受入	タ	イ	ブラザーンミット校	6 2

2015					児童引率
鬼南小	派遣	メ	キシコ	又エボコンティネンテ小	8 2
常西小	派遣	タ	イ	ブラザーンミット校	8 2
西北小	派遣	オーストラリア		ウィーデンハイツ小	7 2
小鈴谷小	派遣	オーストラリア		リージェンシーパーク小	6 2
大野小	受入	オーストラリア		リージェンシーパーク小	6 2
三和小	受入	マ	レーシア	ラジャムーダ小	6 2
常東小	受入	メ	キシコ	又エボコンティネンテ小	7 2
西南小	受入	タ	イ	ブラザーンミット校	8 2
鬼北小					

2016					児童引率
大野小	派遣	イ	ンド	バルバラティ校	5 2
三和小	派遣	タ	イ	ブラザーンミット校	5 2
鬼北小	派遣	マ	レーシア	セクション9小	8 2
常東小	派遣	オーストラリア		マウントビュー小	5 2
鬼南小	受入	マ	レーシア	セクション9小	8 2
常西小	受入	タ	イ	ブラザーンミット校	8 2
西北小	受入	オーストラリア		マウントビュー小	8 2
小鈴谷小	受入	イ	ンド	バルバラティ校	5 2

2017					児童引率
鬼南小	派遣	中	国	ワンタンルー小	8 2
常西小	派遣	マ	レーシア	ラジャムーダ小	8 2
西北小	派遣	タ	イ	ブラザーンミット校	8 2
小鈴谷小	派遣	オーストラリア		リージェンシーパーク小	6 2
大野小	受入	マ	レーシア	セクション7小	6 2
三和小	受入	オーストラリア		リージェンシーパーク小	5 2
鬼北小	受入	タ	イ	ブラザーンミット校	8 2
常東小	受入	中	国	ワンタンルー小	8 2

2018					児童引率
大野小	派遣	マ	レーシア	セクション7小	6 2
三和小	派遣	オーストラリア		マウントウェイバリー校	7 2
鬼北小	派遣	メ	キシコ	トーマスアルバエジソン校	6 2
常東小	派遣	タ	イ	ブラザーンミット校	5 2
鬼南小	受入	タ	イ	ブラザーンミット校	8 2
常西小	受入	マ	レーシア	ラジャムーダ小	8 2
西北小	受入	オーストラリア		マウントウェイバリー校	7 2
小鈴谷小	受入	メ	キシコ	トーマスアルバエジソン校	7 2

2019					児童引率
鬼南小	派遣	マ	レーシア	セティアアラム小	8 2
常西小	派遣	メ	キシコ	トーマスアルバエジソン校	7 2
西北小	派遣	マ	レーシア	バンダーアングリッ小	5 2
小鈴谷小	派遣	タ	イ	ブラザーンミット校	6 2
大野小	受入	中	国	ジンハン小	5 2
三和小	受入	タ	イ	ブラザーンミット校	6 2
常東小	受入	マ	レーシア	バンダーアングリッ小	6 2
鬼北小	受入	イ	ンド	シティモンテソーリ校	8 2

TSIE 活動報告

田中早苗（TSIE 事務局長）

TSIE は、規約にありますように、常滑市内の児童生徒に国際事業を通じて様々な体験を与え、国際経験の重要性を理解してもらえよう、各校区の国際交流委員会や学校とともに活動しています。

また、TSIE は『子ども達が、色々な国の子ども達と生活を共にすることで、互いに影響しあい学びあい、地球規模で平和をはぐくみ、理解しあうことを目的とする』ISSE のプログラムを活用しています。

《 TSIE の主な活動 》

- ・ 定例本部会、役員会（月一回） ・ 総会
- ・ リーダー研修会、リーダー反省会 ・ 結団式、帰国報告会（文化交流のつどい）
- ・ 市長表敬訪問（派遣団） ・ 海外からの派遣団リーダーとの懇親会
- ・ 教育委員会との懇談会
- ・ ISSE 本部との連絡調整、報告、相手校の決定
- ・ ISSE 委員会（月一回）
- ・ ISSE カンファレンス（世界会議）への参加
- ・ 公民館まつりへの参加

多くの方々のご参加、ご支援により 25 年間、この活動を継続することができました。

TSIE の国際交流活動が、未永く続くことを願うとともに、ご協力いただきました多くの皆様に、心から感謝申し上げます。

ISSE カンファレンスの思い出

都築明美（TSIE 副会長）

カンファレンスは 2 年に一度、参加各国持ち回りで開催されています。2016 年には赤道直下のエクアドルのグアヤキルで、7 か国が集いました。2018 年は中国の柳州市で開かれ、9 か国の代表者が集まりました。毎回、何が児童のためになるか、どのようにしたら最良の交流が可能なのかを皆で考えています。

交流のための連絡方法は、20 数年前は手紙、国際電話、電報、ファックスでした。パソコンでの E メール、携帯電話から今では、ほぼスマートフォンへと変化しています。SNS でメッセージ交換、無料電話も可能です。とても便利になってきています。技術は進化しても、人と人との交流の基本は変わりません。国際交流は、違う国の児童らが直接、心と心をふれあう良い機会です。今後も継続を願っています。

次回 2020 年カンファレンスはメキシコシティで開かれます。



2016 年カンファレンス



2018 年カンファレンス

【常滑市内児童生徒国際交流推進協議会規約】

(名称)

第1条 本会の名称を、常滑市内児童生徒国際交流推進協議会（Tokoname City Students' International Exchange Conference Association 以下「TSIE」という）とする。

(目的)

第2条 TSIEは、地球的な平和に参加、貢献する事をもとに、常滑市内の児童生徒（小、中学生）に、国際交流事業を推進することにより、さまざまな体験、機会を与え、児童生徒及びその活動関係者が国際経験の重要性を理解、認識するよう努めることを目的とする。

(事業及び運営)

第3条 TSIEは、前条の目的を達成するために、教育委員会及びPTAとの協力を得つつ、次の事業を行う。
(1) 常滑市内における、国際交流のための外国からの児童生徒の受け入れ事業
(2) 常滑市内における、児童生徒の国際交流のための海外派遣事業
(3) その他、前条の目的の達成に必要な事業
2、TSIEは、教育委員会、PTA及び市民ボランティアの活動によつて前項各号の事業運営に寄与するものとする。

(会員)

第4条 TSIEは、第2条の趣旨に賛同する者及び第2条の趣旨に賛同する市内小中学校により構成する。
2、TSIEの入会については、指定書式申し込み書を、役員会に提出し役員の承認を持って登録、入会とする。
3、TSIEの会員の退会については、委員長又は事務局を通し、役員会の承認をもって退会とする。
4、会員は各年度総会后、1ヶ月以後をもって会費の納入の無い会員は会より退会した事として扱う。

(組織)

第5条 TSIEに、次の役員を置き、役員会を構成する。
(1) 会長 1名 (2) 副会長 若干名 (3) 会計 1名
(4) 事務局長 1名 (5) 委員長 若干名 (6) 事業代表者 若干名
2、役員は、総会において会員の中から選任する。
3、役員が欠けた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
4、役員の任期は、一年とし、再任を妨げない。
5、役員は委員会の委員を兼ねることが出来る。
6、副会長の内1名は、各学校単位において派遣、受け入れ事業等を担当する団体の代表者とする。
7、役員とは別途、役員会の承認を持って会長の任命により監査を2名置く。
8、役員とは別途、役員会の承認を持って会長の任命により顧問を置くことができる。

(役員及び監査、顧問の職務)

第6条 会長は、本会を代表し、会務を総理する。
2、副会長は、会長を補佐し、会長に事故ある時は、その職務を代理する。
3、会計は、経理を担当する。
4、事務局は、会務、総務及び庶務を担当し、会の円滑な運営と活動を行う。
5、委員長は、委員会を掌握し、実務を執行する。
6、事業代表者は、各事業実行団体の事業の円滑な運営を図り、団体の総意の意見を述べる。
7、監査は、会計を監査する。
8、顧問は、各専門事項等にわたり広く意見を述べる。

(役員会の任務等)

第7条 役員会は、総会の可決事項の範囲において、事業実務の事項を付議し、協議、執行する。
2、役員会は、会長又は役員の申し出により会長が召集し、会長が議長となる。
3、役員会は、役員の申し出により、会長の承認によって、役員以外の会員及び有識者等を出席させることができる。
4、役員会は、出席者の過半数で決し、可否同数の時は議長の決するところによる。
5、会長は、随時、会員である市内小中学校に対し、経過を報告し、又は意見を聴取することができる。

(総会及び臨時総会)

第8条 総会は年1回会長が召集し、会長がその議長となる。なお、会長が必要と認めるときは、臨時に総会を召集することができる。総会に付議する事項は、次のとおりとする。
(1) 予算の議決及び決算の認定 (2) 事業計画及び事業報告の承認 (3) 役員の変更及び承認
(4) 規約の変更及び承認 (5) その他、会長が重要と認める事項
2、総会、臨時総会は会員をもって構成する。
3、総会、臨時総会は、出席者の過半数で決し、賛否同数の時は議長の決するところによる。

(事務局)

第9条 TSIEの庶務を処理するため、事務局を常滑市内に置く。
2、事務局は事業該当校中から各1名以上及び会員の中から若干名を選任する。

(委員会)

第10条 委員会とは、役員会の決議により、委員会を置くことができる。
2、委員会は、委員長1名、副委員長若干名を置き、委員会委員の中から定める。
3、委員会委員は、役員会の承認をもって会員の中から選任する。
4、委員会委員は、委員会の申し出により、委員長が召集し、委員長が議長となる。
5、委員長は、担当事業に係わる意見の聴取、取りまとめをし、委員会運営に関して、役員会において協議を計る。
6、委員会委員は役員及び事業実行団体より業務に関する委託、要望をうけ、その業務の円滑なる運営に務める。

(経費)

第11条 TSIEの経費は、会費、補助金、寄付金及びその他の収入をもって充てる。
2、年会費は、500円とする。
3、会員の小中学校からは会費を徴収しない。

(会計年度)

第12条 TSIEの会計年度は、毎年4月1日から始まり、翌年3月31日をもって終わる。

(その他及び緊急の場合の運用事項)

第13条 前条各項の定めのほか、必要な事項は、会長が役員会にはかつて定める。
2、緊急の場合には役員会の議決において、総会の決議に変わることが出来る。

(付則)

この規約は、2003年5月9日から施行する。(年会費変更)